授業科目	異文化間コミュニケーションⅡ					実務家教員担当科目	-
単位	2.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	Kristen Maree Sullivan						
授業概要	異文化間コミュニケーションⅠで学んだことを基盤にして、異文化間コミュニケーションⅡでは次の2つのテーマを扱う。授業の前半では、日本における多文化共生、特に外国人、外国にルーツを持つ人たちが直面する問題や、彼ら・彼女らとのコミュニケーション・共生、支援の在り方について考える。授業の後半では、英語を使った異文化間コミュニケーション、World Englishes や English as a Lingua Franca、多文化な職場・ビジネス界における異文化コミュニケーションという観点から考える。						
授業形態	講義			授業方法	ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション Google フォームを利用して理解度を測り、振り返りを行う。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 日本に住む外国人、外国にルーツを持つ人たちが抱える問題やその支援の在り方について理解し、認識を深めることができる。 2. 英語を使った異文化間コミュニケーション、多文化な職場・ビジネス界における異文化間コミュニケーションにおける注意点や心構えを理解することができる。また、その知識を実際のコミュニケーションに応用することができる。
理想的レベル	授業で学んだことをよく理解した上で、他者との実際のコミュニケーションに応用できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	100%	① 振り返り課題・調べ課題（1回5点か10点、合計50点）、② 期末レポート（50点）
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN21303J

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安（時間）
1. 配布資料を使って授業の復習を行うこと。気になった点について参考文献等を使ってさらに調べること。 2. 振り返り・調べ課題に取り組むこと。 3. 指示された予習を行うこと。	4

4. 期末レポートの準備に取り組むこと。	

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要および目標、履修方法などを説明する。 異文化間コミュニケーションを学ぶ意義について考える。
第 2 回	移民と日本について 日本の外国人（移民）の受け入れ状況について確認する。外国人、外国にルーツを持つ人たちがどのくらい日本にいて、どのような人たちが日本に住んでいるのか。外国人受け入れの歴史的な展開と入国管理及び難民認定法の変遷についても確認する。
第 3 回	多文化共生社会について１ 多文化共生とは何か。日本における多文化共生の現状、課題、取り組み等について確認する。日本に住む外国人、外国にルーツを持つ人たちはどのような問題に直面するかについて考える。
第 4 回	多文化共生社会について２ 多文化共生とは何か。日本における多文化共生の現状、課題、取り組み等について確認する。日本に住む外国人、外国にルーツを持つ人たちはどのような問題に直面するかについて考える。
第 5 回	外国につながる子どもたちについて 外国につながる子どもたちの現状や支援策について考察する。 2019 年に放送された NHK クローズアップ現代『ルポ 外国人労働者の子どもたち～受け入れ拡大のかげで～』を観る。
第 6 回	やさしい日本語について やさしい日本語とは何か。やさしい日本語の誕生や形、使用現場などについて考える。
第 7 回	北九州市における多文化共生の取り組みについて 公益財団法人北九州国際交流協会の方を招いて、北九州における多文化共生の取り組みについて学ぶと共に、国際交流協会で働く方の仕事内容および必要とされるスキルや能力について確認する。（外部講師）
第 8 回	多文化共生についてのケーススタディ学習・前半のまとめと振り返り 多文化共生のケーススタディについてグループディスカッションを行う。 前半のまとめと振り返りを行う。
第 9 回	世界の英語（World Englishes） 英語を使ってコミュニケーションをする場合は、相手が英語を母語とする人とは限らない。まずは世界の英語の現状を確認する。
第 10 回	リンガフランカ（共通語）としての英語（English as a Lingua Franca（ELF）） English as a Lingua Franca について学びながら、具体例などを通してグローバルなビジネス環境におけるコミュニケーションについて考える。
第 11 回	ビジネスでの異文化接触 ワークショップ形式でビジネスでの異文化接触について考える。
第 12 回	グローバルな職場における異文化間コミュニケーションについてのケーススタディ学習１ 職場における異文化間コミュニケーションにおける誤解・失敗・すれ違いの原因となりえる事柄について、ケーススタディを考察しつつ、再確認する。

第 13 回	経験者から学ぼう 多文化な職場環境において英語を使って仕事をする経験のある方の話を通して、このテーマについての理解や関心をさらに深める。（外部講師）
第 14 回	グローバルな職場における異文化間コミュニケーションについてのケーススタディ学習２ 職場における異文化間コミュニケーションにおける誤解・失敗・すれ違いの原因となりえる事柄について、ケーススタディを考察しつつ、再確認する。
第 15 回	グローバルな職場における英語の使用について・後半のまとめと振り返り 第 14 回のケーススタディを例として、グローバルな多文化な職場における英語の使用についてアクティビティを通して考える。 後半のまとめと振り返りを行う。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に指示する。
課題に対するフィードバックの方法	振り返り課題・調べ課題に対するフィードバックは、次回の授業の中で口頭で総合コメントをしたり、グーグルクラスルームの機能を用いて行います。
学生へのメッセージ・コメント	１．異文化理解・異文化コミュニケーション能力を成長させるには、振り返ることがとても重要です。授業内容、授業内容と自分、授業内容と自分が住んでいる社会について振り返る習慣を身に付けましょう。 ２．授業内容に対する理解を深めるには、幅広い知識、問題意識を持つことも重要です。日ごろから新聞を読み、問題意識を持ちましょう。また、参考資料を紹介するので、積極的に読みましょう。